

概要報告

実施期日	8月4日(金)
部会名	小学校 体育部会

神奈川県研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

『誰もが主体的にゲームに参加できる「バスケットボール」の授業

～授業UDとアダプテーション・ゲームを通して～』

提案概要

【研究の概要】

1. 授業をユニバーサルデザインする
2. アダプテーション・ゲームの実践

【授業の実践】

1. 授業をユニバーサルデザインする

(1) すべての児童の参加についての工夫

①クラスの状況を児童が理解する（理解の促進）

Googleフォームを活用して、バスケットボールに関する実態調査を行った。

②ルールの明確化（活動の明確化）

学習のゴールを明確にし、授業の最初に単元全体の見通しをもたせた。

③場の構造化

バスケットボールの授業ではチームごとに練習場所を設定し、児童が一目で分かるように活動場所をホワイトボードに示した。

(2) すべての児童が理解できる工夫

①視覚化

効果的に視覚的情報を入れる。（写真や動画など）

②展開の構造化

単元の展開、授業の展開を明確にし、授業の流れをある程度パターン化する。

③スモールステップ化

達成するまでのプロセスに細かな段階を作る。

④共有化

ペア学習やグループ学習など、子ども同士で行う活動を取り入れる。

2. アダプテーション・ゲームの実践

事前アンケートで『バスケットボールを誰もが楽しめるスポーツにするとしたら、どんなルールが考えられるか。』と質問し、児童の回答をもとに、アダプテーションを設定した。

単元の6、7時間目は『誰もが活躍できるルールを調整しよう』をめあてに、チームでアダプテーションを自由に考え、考えたことをチームで伝え合うことで、思考力・判断力・表現力の向上を目指した。

【結果と考察】

1. 主体的な取組における変容

- ・体育の授業をユニバーサルデザインすることで、児童の『わかる・できる』につながった。
- ・バスケットボールが好きではない児童も、バスケットボールを楽しむことができた。

2. アダプテーション・ゲームにおける効果

- ・『誰もが活躍できるゲームを自分たちで作って、みんなでバスケットボールを楽しもう』のめあてに向かって取り組む姿が多くの子から見られたのは、アダプテーション・ゲームを行ったことの効果だと考えられる。しかし、アダプテーションがあることによって、ルールが複雑化したり曖昧になったりしてしまう場面があり、ゲームをするうえで審判が正しく判断できないような場面が生まれてしまったことは課題である。また、チームの勝利よりもチーム全員が活躍することを第一に考えさせたことで、バスケットボールの楽しさを感じることができなかった児童がいたことについても、今後取り組むうえで考えていきたい課題となった。

質疑応答

質疑応答はなし。グループ協議の時間に、AIテキストマイニングの使い方について話題になっているグループが多かったため、協議後にその使い方を全体の前で説明した。

協議の柱及び協議概要

1. 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善になっていたか」（小・中学校）

- ・アダプテーションをすることでルールが変わっていくので、本来のルールとどうつなげていくかがグループでの話題となった。
- ・子どもたちが楽しんでできていた。
- ・ロイロノートなどを使うと、子ども同士で共有できるというメリットがある。
- ・授業の流れを決めておくことで、児童が安心して参加できる。
- ・バスケットボールが苦手な子に合わせると、バスケットボールが得意な子が退屈に感じてしまう。
- ・自分たちでルールを考えることで、先生から言われる以上にルールを守るという意識が高まる。
- ・AIテキストマイニングを活用することで授業前後の変化が見られるので、活用していきたい。

2. 「誰もが楽しめる、活躍できるボール運動・ゲームにするための工夫について、みなさんが取り組まれていること」（小学校）

- ・小学校では用具を変える。硬いボールではなく柔らかいボールを使うなど。
- ・ルールの簡素化。簡単にしすぎても得意な子にとってはつまらなくなってしまう。できる子には監督役を与えるなどして、誰もが楽しめるようにしている。

まとめ概要

1. 学級や学年の実態に応じた課題意識

スポーツクラブ等で運動している児童と、体育でしか運動していない児童とでは、知識や技能に大きな差がある。体育の授業におけるチームスポーツになると、勝敗にこだわるがゆえに、苦手な子にとってはつまらない授業になってしまっていた。この課題意識が、誰もが主体的にゲームに参加するためにはどうするかについての実践につながった。

今回の実践のように、運動をあまり得意としない児童もふくめたすべての児童を包摂し、よりよい学びをともに作り上げようとする姿勢が広がってほしい。

2. ワークシートの工夫

単元の流れと授業のポイントがまとめられている。児童の思考がワークシートによって整理されていき、授業のたびにアップデートされていくことがわかった。思考を整理するという意味で、ワークシートのもつ意義を改めて理解できた。